

作文コンクール 優秀賞

((独)北方領土問題対策協会理事長賞)

相互理解

香芝市立香芝西中学校 池上 凜

私は北方領土のことについて、ニュースや新聞などでよく目にしていましたが、表面的な部分しか知らなかったし、どこか他人事のように思っていました。しかし、北方領土のことについて調べて、北方領土問題は一人一人が関心を持って考えなければいけないと感じたし、占領された当時の事も忘れてはいけないと思いました。

北方領土問題とは歯舞群島、色丹島、択捉島、国後島の北方四島がロシアにより不法に占拠されていることだそうです。この北方四島は一度も他国の領土になったことがなく、日本固有の領土です。しかし、1945年8月9日にソビエト連邦は当時有効であった、中立条約を無視して対日参戦し、8月18日より千島列島へ攻撃をはじめ、9月5日までに北方領土を占領されました。それから、北方四島から1948年までに全ての日本人を強制撤去させ、現在、日本人は一人も住んでおらず、ロシア人が18365人住んでいます。私はソ連軍が北方領土を占領したことに対して、中立条約を無視したことは良くないし、罪のない住民を強制撤去させることも良くないと思います。けれど私は戦争という状況を作り出したことが悪いと思います。ソ連の兵士も戦争の被害者であることのように感じますし、もちろん、故郷を奪われ、辛い思いをした北方四島に人々も被害者です。全ての人々が戦争という状況によって傷つけられた人であると思います。なので私は戦争という状況がいけないのだと考えます。また、自然豊かな北方四島で学校に通い、野球をして遊んだりしていた普通の日常が突然奪われ、占領されて家を接收されたり、労役などの酷使によって病人が出てしまう、引き上げ船での衛生環境が悪く、配給もなく、多くの人が飢餓や病気で亡くなってしまったという当時の状況を知りました。当時の人々の悲しみや苦しみ、日本も含め、戦争中の非人道的な行いを忘れないことが大切であると思います。その思いや過去が抑制力になり、このような事が繰り返されなくなり、一つ一つの命が尊重されるようになっていくと考えられます。

そして、両政府が北方領土問題に対して長い間交渉を重ねながら取り組んでいることも分かりました。北方領土は現在、ロシアの人々が居住しており、漁業や水産加工、缶詰製造が行われていて、ピーク時に比べ大幅に縮小されましたが、防御的な任務が主体の一個師団が駐留し、戦車や各種火砲、対空ミサイルが配備されています。これらのことから北方四島は水産物が豊富で新鮮な物が食べられ経済的にも重要な場所であると思うし、軍事的な面から見ても利用できる所なのかなと思いました。けれど、それ以前に元島民の人々が住んでいた故郷であり、ロシアの人々にとっても自分達の家がある土地であるのでそれぞれの人の気持ちを尊重して問題に取り組んでいくことが第一であると思います。北方領土問題はソ連が領土問題は存在しないという態度をとっていましたが、そこから北方領土の帰属の問題を解決し、平和条約を締結するという基本方針のもと、少しずつ前に進んでいると思います。元島民の平均年齢が82歳を超えていますが私は領土の帰還は時間をかけて島に居住している人のことを考えて行っていくべきだと思います。そして、四島交流や北方墓参などをもっと活発にし、元島民が大切な思い出の地をより多く訪れられるようにできれば良いと思います。

私は元島民の故郷に戻れない悲しみを知り、故郷は人々の心の支えであると感じました。それは今居住している人にとっても同様で、互いの思いを尊重することの大切さ、難しさを感じました。日本国民一人一人の考えは日本としての考えとみなされるので、自分も関心を持ち、考えなければいけないと思います。